

戦（いくさ）に関わる文字文化と文物の総合的研究

遠山 一郎

(愛知県立大学・文学部・教授)

【研究の概要等】

この研究は、日本において、戦（いくさ）とそれに関わる諸現象が、人の生きかた、社会、文化にどのような影響を及ぼしたかを、人文学のさまざまな分野の学際的研究によって総合的に捉えようとする。この研究は、これまでの軍記文学や戦記文学の研究とは異なり、戦を一連の歴史的・社会的・文化的なつながりとして捉え、戦そのものだけでなく、空間的にその周辺にあることがら、時間的にその前後にあることがら全体を解き明かそうとする。日本は古代から近代にわたり、他の地域、すなわちアジア、ヨーロッパ、北アメリカとつねに関わってきた。これらの地域との関わりを視野に収め、戦に関連した文学、文物を、その時代における意味、そして、前後の時代との関わりを見渡しつつ研究する。

この研究は、戦によって技術革新が進み社会構造や文化が変わるさまを明らかにしながら、戦に際しての人生観あるいは死生観、戦と戦死者に対する記憶、人の認識の仕方が戦前、戦中、戦後で変化するさまなどに踏み込んでゆく。このように戦によって人が変わるさまをも解き明かすことが、この研究のねらいである。

【当該研究から期待される成果】

この研究は、戦を起こさせないための、そして不幸にして起きてしまったとき、少しでも良い方向を得るための手がかりを見出そうとする。この研究によって、戦から解きはなされた人、社会、文化を作りだす手がかりが得られれば、人文系の研究が世に役立つ道の一つを示すことができよう。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ 遠山一郎：『『古事記』成立の背景と構想』（笠間書院、2003）、『天皇神話の形成と万葉集』（塙書房、1998）
- ・ 丸山 裕美子：『日本古代の医療制度』（名著刊行会、1998）
- ・ 中根千絵：「『今昔物語集』における月の表現二題」（『神話・象徴・文化』楽浪書院、2006）
- ・ 山村亜希：「中近世能登七尾の湊町と城下町の景観」（矢田俊文・千田嘉博編『能登七尾城と加賀金沢城—中世の城・まち・村—』新人物往来社、2006. 3）
- ・ 下村信博：『戦国・織豊期の徳政』（吉川弘文館、1996）
- ・ 宮崎真素美：『鮎川信夫研究—精神の架橋—』（日本図書センター、2002）

【研究期間】 平成19年度—23年度

【研究経費】 7,400,000 円
(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】

<http://www.lit.aichi-pu.ac.jp/kb/kibanS07/kibanS07.htm>